

AYLA HOUKAGO PARTNER

食べる力 生きる力を育む

食を営む力



本人支援の5領域



将来、日常生活や社会生活を
円滑に営めるようにするためのもの

障害のあるこどもが健やかに育っていくための方法

養護

健康
生活

運動
感覚

認知
行動

言語
コミュニケーション

人間関係
社会性

5領域（＝本人発達への支援）

様々な体験を積み重ねる中で、相互に関連を持ちながら達成に向かう

健康の増進

睡眠、食事、排泄等の基本的な生活のリズムを身に付けられるよう支援する。また、健康な生活の基本となる**食を営む力**の育成に努めるとともに、楽しく食事ができるよう、**口腔内機能・感覚**等に配慮しながら、**咀嚼・嚥下の摂食機能、姿勢保持、手指の運動機能**等の状態に応じた自助具等に関する支援を行う。さらに、病気の予防や安全への配慮を行う。

口腔内機能

感覚特性

咀嚼・嚥下

姿勢保持

手指の運動機能

睡眠・排泄

食事にまつわるよくある悩み

食べない

飲まない

遊び食べ

偏食

丸のみ

手作りのストレス

栄養面の不安

給食のプレッシャー

周囲の目



食を営む力とは

食べることは、生きることの源であり、心と体の発達に密接に関係していることから、「食を営む力」とは、生涯にわたって健康でいきいきとした生活を送る基礎となるものとされています。

◆食事は空腹を満たすだけでなく、人間的な信頼関係の基礎をつくる営みでもあります。(家族を感じる営み)

◆子どもが身近な大人からの援助を受けながら、他の子どもとのかかわりを通して、豊かな食の体験を積み重ね、楽しく食べる体験を通して、食への関心を育み、食を営む力の基礎を培う「食育」を実践していくことが重要です。

保育所における食育の子ども像

- ① お腹がすくりズムのもてる子ども
- ② 食べたいもの、好きなものが増える子ども
- ③ 一緒に食べたい人がいる子ども
- ④ 食事づくり、準備にかかわる子ども
- ⑤ 食べものを話題にする子ども



食事に関連する生活の流れ

「**お腹がすくリズムのもてる子ども**」とは、よく遊び、よく眠り、規則正しい生活を送っている子どもをイメージします。子ども自身が「お腹がすいた」と感じられる生活を送るためには、子ども自身が**楽しく思い切り遊ぶこと**は欠かせないものです。健康でいきいきと生活するためには遊びが不可欠です。

また、食が細いお子さんや、食べムラがあるお子さんについても、その子の気質や発達課題からそういう状況になっているという事もあれば、就寝時間の遅れ等生活の夜型化によって**朝食の欠食や食欲の低下を引き起こし、結果的に日中の活動量も低下し更に食が細くなる**といったことも考えられます。

「偏食」はなぜ起きる？

偏食とは、**一般的に特定の食品を嫌って食べない**、あるいは限られた食品ばかりを好んで食べるような偏った食事をすることをいいます。ただ、子どもは**身体の発達や味覚の発達**によって食べられないということもありますし、主に**自閉症の傾向**のあるお子さんの場合は感覚特性によって苦手なおい、味、食感、粘度等によって食べられないということもあります。一方で、単純に本人の**好き嫌い**ということもあるでしょう。また、**道具がうまく使えない**、特定の食材を食具でつかむ・すくうことができず、食べられないということもあるかもしれません。子どもの食の課題を一概に「偏食」とくくるのではなく、全体的なアセスメントを通じて考えていく必要があります。

自閉的傾向と食

自閉症の特徴から紐解く

限定された反復する様式の行動・興味・活動が2つ以上あること

(情動的、反復的な身体の運動や会話、固執やこだわり、極めて限定され執着する興味、感覚刺激に対する過敏さまたは鈍感さなど)

◆考えられること（こだわりになるポイント）

- ・ 嗅覚、触覚過敏で苦手なおいや食感の食材がある
- ・ 食器や配膳へのこだわり
- ・ 視覚的に苦手な色や形がある
- ・ 環境面の問題



それだけじゃない



専門的支援領域からの視点



姿勢

手指の
運動発達

口腔

総合支援型の事業所でできることは継続しつつ、アセスメントの結果によって見立てた仮説をもとに、専門職への連携を行い、お子様本人の発達支援につなげていきましょう。

食事のアセスメント

特定のメニューしか食べない

本人の特性

環境

食育

どんなことを

取り組んでいますか？

